

2023年度 事業報告書

2023年(令和5年)4月1日から2024年(令和6年)3月31日まで

公益財団法人 SOMPO美術財団

I. SOMPO美術館関係事項

1. 美術作品の収集、保存、公開

<1> 展覧会の開催

(1) ブルターニュの光と風

会期: 2023年3月25日(土)～6月11日(日)

共催: フジテレビジョン 協賛: SOMPOホールディングス 特別協力: 損保ジャパン

後援: 在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本、新宿区

企画協力: ホワイトインターナショナル

本展は、フランス北西部の地、ブルターニュに魅了された画家たちが描いた作品を通じ、同地の歴史や風景、風俗を幅広く紹介する展覧会であり、カンペール美術館の作品を中心に45作家による約70点の油彩・版画・素描を展示した。

【関連イベント】

① プレス及び一般内覧会 (2023年3月24日)

② 観覧者に展覧会出品作品8点を除く全ての作品の撮影を許可した。

【主な放送・掲載誌等】

NHKEテレ 日曜美術館アートシーン(5/7 放送)、日本経済新聞朝刊(4/8)、朝日新聞夕刊(5/10)、共同通信「東京ウオッチ」コーナーで紹介された。

ウェブサイトは、「美術展ナビ」や「FASHIOIN PRESS」「SPICE」「ぴあ」等で紹介。

(2) 生誕 100 年 山下清展—百年目の大回想

会期: 6月24日(土)～9月10日(日)

共催: 朝日新聞社 協賛: SOMPOホールディングス 特別協力: 損保ジャパン

後援: TOKYO MX、新宿区 協力: 山下清作品管理事務所

企画協力: ステップ・イースト

山下清(1922–1971)は放浪の天才画家として知られており、懐かしい日本の原風景や名所を貼絵で表し、多くの人々の心を捉えた。生誕 100 年を記念する本展は、代表的な貼絵の作品に加えて、子供時代の鉛筆画や後年の油彩、陶磁器、ペン画などを展示し、山下清の生涯と画業を辿った。超絶技巧的とも言える貼絵をはじめ、油彩やペン画を含めた作品約 190 点、そして旅に持参したリュックや浴衣などの関連資料により、49 歳で逝去するまで精力的な活動を続けた山下清の芸術家としての真の姿を紹介した。また、オリンピック東京大会の開会式を描いた作品(《日本、しっかり》1964(昭和 39)年頃、水彩画、東京都蔵)を当館のみの特別出品として展示した。

【関連イベント等】

① 講演会「家族が語る山下清」 (7月22日)

② 対話による鑑賞会「ふぁみりー★で★とーく・あーと」 (8月7日)

③ 観覧者にゴッホ《ひまわり》を含む収蔵品3点の撮影を許可した。山下清展の作品は、作品保護のため撮影不可とした。

【主な掲載・放送等】

- ① 朝日新聞夕刊「美の履歴書」(7/25)、読売中高生新聞「巨匠に聞いてみた。」(7/28)、読売新聞夕刊「アートの手帖」(8/2)、東京新聞「読み解きアート」(8/8)、毎日小学生新聞「美術でござる」(8/13)等で紹介された。
- ② WEB版「美術手帖」やインターネット・ミュージアム、朝日アーツ&カルチャーLINE配信、朝日新聞デジタル「エイジンググレイスフリー」配信のほか、美術雑誌等で紹介された。
- ③ テレビ東京「新美の巨人たち」(8/19)、テレビ朝日「グッドモーニング」(8/25)、MX テレビ「はじめての美術館」(8/27)、NHKEテレ「ねこのめ美術館」(8/31、9/2、9/5)で放送された。

(3) ゴッホと静物画 ―伝統から革新へ

会期: 10月17日(火)～2024年1月21日(日)

共催: NHK、NHK プロモーション、日本経済新聞社 協賛: SOMPOホールディングス

特別協力: 損保ジャパン 協力: KLM オランダ航空、日本航空

後援: オランダ王国大使館、J-WAVE、新宿区

本展覧会は 17 世紀オランダから 20 世紀初頭まで、ヨーロッパの静物画の流れの中にゴッホを位置づけ、ゴッホが先人達から何を学び、それをいかに自らの作品に反映させ、さらに次世代の画家たちにどのような影響をあたえたかを探った。

また、当館の《ひまわり》を展示ケースから出し、ゴッホ美術館の《アイリス》と並列して展示するとともに、「ひまわり」に焦点をあてたコーナーを設け、ゴッホやその他の画家たちによる「ひまわり」作品を紹介した。

国内外 25 か所からの出展作品は計 69 点、そのうち 25 点がゴッホの油彩画であった。

【関連イベント等】

- ① 開会式・内覧会を開催 (10月16日)
- ② 学芸員によるギャラリートーク (11月17日、12月8日)
- ③ 観覧者数10万人達成イベント(記念品を贈呈) (12月12日)
- ④ ギャラリー★で★トーク・アート (11月20日)
- ⑤ 観覧者に8点を除く全ての作品の撮影を許可した。

【主な掲載・放送等】

NHK 首都圏ニュース 645(12/9、12/23、1/7)、日本経済新聞対談企画(11/23)、日刊工業新聞「ポートフォリオ」(11/10)、東京新聞「カジュアル美術館」(12/16)、朝日新聞夕刊「美の履歴書」(12/26)や共同通信による記事配信、テレビ朝日動画「Musée de ももクロ」前後編、WEBサイト「美術展ナビ」の企画「亀蔵 meets」全3回の配信、WEB版「美術手帖」等で紹介された。

(4) FACE展2024

会期: 2月17日(土)～3月10日(日)

共催: 読売新聞社 特別協賛: SOMPOホールディングス

特別協力: 損保ジャパン 後援: 文化庁、東京都、新宿区

公募コンクール「FACE」入選作品78点(うち受賞作品9点)を展示した。

【関連イベント】

- ① 表彰式、内覧会 (2月17日)
表彰式では受賞者に表彰盾を贈呈。内覧会では、入選作家と審査員や美術評論家、マスコミ等がつながる機会を提供した。
また、入選者に作品のポストカードを、コンクールへの応募者全員に展覧会図録と観覧券を別途贈呈した。
- ② 観覧者に全ての作品の撮影を許可した。

【主な掲載・放送等】

美術の窓、月刊美術、新美術新聞等のほか、インターネットミュージアムや「美術展ナビ」では作家や作品画像、作家コメントが紹介され、コンペ情報サイト「登竜門」とWEB版「美術手帖」にグランプリ受賞作家のインタビュー記事を掲載した。

(5) 北欧の神秘 —ノルウェー・スウェーデン・フィンランドの絵画

会期:3月23日(土)~6月9日(日)

共催:NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社

特別協賛:SOMPOホールディングス 協賛:DNP大日本印刷

特別協力:スウェーデン国立美術館、フィンランド国立アテネウム美術館、ノルウェー国立美術館、損保ジャパン 協力:フィンエアー、フィンエアーカーゴ

後援:スウェーデン大使館、フィンランド大使館、ノルウェー大使館、新宿区

企画協力:S2

本展は、ノルウェー国立美術館、スウェーデン国立美術館、フィンランド国立アテネウム美術館という3つの国立美術館の協力を得て、各館の貴重なコレクションから選び抜かれた68点の作品を展示。19世紀から20世紀初頭の国民的な画家たち、ノルウェーの画家エドヴァルド・ムンクやフィンランドの画家アクセリ・ガッレン＝カッレラらによる絵画などを通して、北欧の知られざる魅力を紹介している。また、出品作品をイメージした世界を再現した音空間を展示室で展開するとともに、ノルウェー人画家テオドル・キッテルセンの作品をテーマにした映像+BGMを作成し、本展では出品できなかった紙作品をアニメーション化した。

【関連イベント】

- ① 開会式及び一般内覧会 (3月22日)
開会式にはノルウェー、スウェーデン、フィンランドの大使が出席され、3カ国を代表してペールエリック・ヘーグベリ スウェーデン大使が挨拶された。
- ② 開催記念シンポジウム (3月26日)
- ③ 4階展示室の作品(映像を除く)と《ひまわり》の撮影を許可した。

【主な放送・掲載誌等】

NHK「首都圏ニュース 645」(3/30)やウェブサイト「美術手帖」「インターネット・ミュージアム」「Tokyo Art Beat」等で紹介された。

<2> 展覧会鑑賞支援

(1) 資料の配布

- ① 全ての展覧会において作品リストは紙での配布のほか、二次元バーコードの活用や当館ウェブサイトへの掲載を行った。

- ② 「山下清展」では小学生に「貼り絵キット」を配布し、当館ウェブサイトにも掲載した。
- ③ 「ゴッホと静物画」では鑑賞の手引きとして、ガイド2種『鑑賞ガイド-静物画の歴史』と『ジュニアガイド』を、「北欧の神秘」では一般向け鑑賞ガイドを配布するとともに、当館ウェブサイトにも掲載した。
- ④ 「ゴッホと静物画」ではデジタル鑑賞システムを導入し、ウェブサイト上でキューブ状のインターフェースを用い、出品作品の関係性をさまざまな視点から紹介した。
- ⑤ 来館者のスマホで多言語表示できるQRトランスレーターを導入し、展覧会概要や章解説の4か国語(英語、中国語繁体字・簡体字、韓国語)表示を開始、FACE展からは6か国語(フランス語、スペイン語を追加)で実施した。

(2) 図録等販売物

全ての展覧会において図録を販売し、「ブルターニュの光と風」ではジュニア版ブックレットを販売した。

(3) 講演会・シンポジウム

- ① 「山下清展」では、『家族が語る山下清』と題し、山下浩氏(山下清作品管理事務所代表・山下清の甥)による講演会を開催した。

7月22日(土)10時～11時半 参加者 103名

- ② 「北欧の神秘」ではシンポジウムを開催し、北欧の美術についての講演とパネル・ディスカッションを行った。

3月26日(火)16時～18時 参加者 123名

登壇者は以下の4名。

- スサンナ・ペッテルソン氏(フィンランド文化財団理事長)、
- パール・ヘッドストウルム氏(スウェーデン国立美術館展覧会部門ディレクター)、
- ヴィーベケ・ヴォラン・ハンセン氏(ノルウェー国立美術館主任学芸員)
- アンナ=マリア・フォン・ボンズドルフ氏(フィンランド国立アテネウム美術館館長)

(4) 学芸員によるギャラリートーク

展覧会担当学芸員が展示室で作品解説を行った。(予約制、約40分間)

	第1回	第2回	第3回
ブルターニュの光と風	4/28(金) 20名	5/19(金) 15名	6/2(金) 15名
ゴッホと静物画	11/17(金) 27名	12/8(金) 32名	

(5) 音声ガイド

「ブルターニュの光と風」「山下清展」「ゴッホと静物画」で音声ガイド(約30分 600円)を貸し出した。「山下清展」及び「ゴッホと静物画」では声優をナビゲーターとし、「ゴッホと静物画」では英語版も作成した。従来の貸出用端末に加え、「山下清展」と「ゴッホと静物画」では来館者のスマホでも視聴可能とした。

(6) 高齢者施設向け鑑賞動画

動画シリーズ「SOMPO美術館オンライン アートにふれる 10分間」を作成、SOMPOケアが運営する介護施設に提供し、福祉分野での芸術文化活用の取組を開始した。初回はゴッホ《ひまわり》、第2回は東郷青児《望郷》とグランマ・モーゼス《さあ、ボートに乗りに行こう》を題材として取り上げた。

<3> 展覧会別観覧者数

「ゴッホと静物画」では49日目に10万人を達成、一展覧会として過去最高の観覧者数を記録。展覧会最終日は3,845人が来館した。

会期	展覧会名 (*は特別展)	開館 日数	有料 観覧者数	無料 観覧者数	観覧者数 合計	1日 平均
4/1-6/11	ブルターニュ の光と風 *	62	23,306	11,654	34,960	563
6/24-9/10	山下清展 *	69	84,310	29,535	113,845	1,649
10/17-1/21	ゴッホと静物画 *	79	140,076	41,932	182,008	2,303
2/17-3/10	FACE展2024	20	5,035	4,233	9,268	463
3/23-3/31	北欧の神秘 *	8	5,170	1,808	6,978	872
合計		238	257,897	89,162	347,059	1,458
<参考>昨年度合計		238	74,087	40,787	114,874	482

<4> 館蔵品・資料・文献の収集・整備

(1) 収集に関する事項

- ① 美術作品の受贈 (2月16日)
津村 光璃《溶けて》2023年 可溶性建染染料・蠟けつ染め・綿布・パネル
- ② 美術資料の収集
東郷青児絵はがき個人コレクション一式(127種)

(2) 館蔵品展示

常設展示のゴッホ《ひまわり》のほか、以下のとおり館蔵品を展示した。

- ① ブルターニュの光と風
ゴーギャン《アリスカンの並木路、アルル》
- ② 山下清展
東郷青児《望郷》、グランマ・モーゼス《さあ、ボートに乗りに行こう》
- ③ ゴッホと静物画
セザンヌ《りんごとナプキン》、ロラン・ホルスト《ゴッホ展図録》
- ④ FACE展2024
吉田桃子《Still milky_tune #4》※昨年度のグランプリ作品
東郷青児《望郷》《ピエロ》《コントラバスを弾く》《鳥と少女》
グランマ・モーゼス《古い格子縞の家》《フーリック・フォールズ、ニューヨークⅡ》
《既の屋根葺き》《イメージーション》《グランマ・モーゼスの家、1925年》
- ⑤ 北欧の神秘
館蔵品展示なし

【主な放送・掲載誌等】

- ① 日本テレビ「世界一受けたい授業」(5/27放送)、YouTube番組「MEET YOUR ART」(4/27配信)、NHK Eテレ「びじゅチューン！」「MIXびじゅチューン！」再放送(7/19,21,8/15,18)で《ひまわり》が紹介された。
- ② 《ひまわり》の3DCG超高解像度映像を使用した「謎解き！ヒミツの至宝さん」が、NHKBBSや総合テレビで放送され、番組内で当館の学芸員が解説を行った。

(3) 館蔵品の保全

- ① 収蔵庫の清掃と作品の棚卸・点検は定期的を実施した。

- ② ゴッホ《ひまわり》及びセザンヌ《りんごとナプキン》の額のメンテナンスを行った。
- ③ 施設内の害虫発生状況を定期的に調査し、その結果、薬剤散布による防虫防除処理は不要であった。
- (4) 作品・資料等のデータ整備
当館ウェブサイトにおいて、財団所有作品と寄託作品の情報を公開しており、順次画像データの公開と情報の充実に取り組んだ。また、全国美術館収蔵品サーチ「SHŪZŌ」に34件を追加で公開した。
- (5) 著作権の管理
東郷青児、東郷たまみの著作権は管理規程に基づき適正に管理した。(23件許諾)

<5> 館蔵品の貸与

作品名	貸与先等
西山真一《ばら》、野間仁根《バラ》 宮本三郎《花》、中村研一《ばら》 東郷青児《静物(ゆりの花)》	「花の絵画展」 カメイ美術館(会期:2023.3/7-5/21)
横須賀幸正《諸行無常(時間)》	「海辺のプリズム 横須賀幸正展」 常陽藝文センター1階 藝文ギャラリー(会期:5/31-7/30)
ピカソ《宝石》	「スペインのイメージ:版画を通じて写し伝わるすがた」 長崎県美術館(会期:4/8-6/11)、 国立西洋美術館(会期:7/4-9/3)
笠井誠一《二つの卓上静物》 小杉小二郎《月・追憶》	「新たな時代のエトランゼーパリへ渡った日本人画家たち 1950-70s」 小杉放菴記念日光美術館(会期:9/16-11/19)
東郷青児 《巴里の女》《スペインの女優》	「マリー・ローランサン—時代をうつす眼」 アーティゾン美術館(会期:12/9-2024/3/3)
東郷青児《超現実派の散歩》	「『シュルレアリスム宣言』100年 シュルレアリスムと日本」展 京都府京都文化博物館(会期:12/16-2/4) 板橋区立美術館(会期:2024/3/2-4/14)

<6> 調査・研究

- (1) 運営委員会の開催
館長の諮問機関である運営委員会を3回開催(4月、9月、1月)し、展覧会に関する意見収集等を行った。運営委員は高橋明也氏(東京都美術館館長)、児島薫氏(実践女子大学教授)、大島徹也氏(多摩美術大学教授)、増子美穂氏(東洋大学教授)の4名。
- (2) 当館での執筆・講演活動
 - ① 「ブルターニュの光と風」「北欧の神秘」の図録の執筆、編集、翻訳に携わった。
 - ② 「ブルターニュの光と風」ジュニア版ブックレットを作成した。
 - ③ 「ゴッホと静物画」図録及び「FACE展2024」図録を刊行した。
 - ④ 「ゴッホと静物画」展鑑賞ガイド『静物画の歴史』を作成した。
 - ⑤ 「北欧の神秘」展鑑賞ガイドを作成した。
- (3) 館外での執筆・講演活動
 - ① 東京日仏学院主催の講座「展覧会でめぐるフランスの地方 — ブルターニュと南仏」全6回において、第3回(4/25)と第4回(5/9)の講師を務めた。

- ② 一橋大学大学院主催のワークショップ「日本の美術館とブルターニュ」(5/22)に登壇し、当館の展覧会について紹介した。
- ③ 西宮市大谷記念美術館において、前年度当館で開催した「おいしいボタニカル・アート」関連イベントとして、講演会「文学とアートから見るイギリスの食事」(6/11)の講師を務めた。
- ④ 「新美術新聞」(7/15号)や公明新聞「文化」欄(7月掲載)、サライ.JP(10月掲載)「小原流插花」12月号に寄稿し、「ゴッホと静物画」等の展覧会を紹介した。

(4) その他

- ① RKD (Netherlands Institute for Art History)、ゴッホ美術館、クレラー・ミュラー美術館の3者が主催し、ゴッホ作品の科学的調査研究を目的とする「Van Gogh Worldwide」に当館と《ひまわり》が登録・公開された。(5月)
- ② 「ゴッホと静物画展」において「展覧会における美術品損害の補償に関する法律」に基づく「美術品損害の政府補償制度」の申請が承認された。(9月12日)
- ③ 《ひまわり》の3D映像のデジタルコンテンツを作成
作品所有者である損保ジャパンとNHKエンタープライズ及び当財団の3者間契約に基づき、今後の作品の保存、修復、及び調査・研究等への活用を主な目的として《ひまわり》を撮影し、3DCG超高解像度映像を制作した。

2. 展覧施設の運営管理

<1> 施設運営

(1) 感染症対策

政府によるマスク着用緩和方針を受け、「ブルターニュの光と風」からは来館者のマスク着用を任意とし、5月8日からの新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行を受け、来館者の入場時の検温や手指消毒及び事務局やスタッフのマスク着用を任意とした。

(2) 混雑対応

- ① 「山下清展」では会期終盤から屋外での待ち時間が発生し、誘導スタッフ増員に加え、学芸員を含めた職員総出で来館者対応を行った。会期末の土日は17時半まで入館待ちの列に並んでもらい、最後の来館者が展示室に入場してから40分後まで開館時間を延長した。また、展示室での滞留時間短縮のため、展示ケースの位置変更等の対策を実施した。暑さ対策としては、ミスト扇風機の設置や日傘の貸出等を行い、会期末の土日は隣接する損保ジャパン本社ビル1階ロビーの使用許可を取り、屋内に入館待ちの列を作った。
- ② 「ゴッホと静物画」では、「山下清展」の混雑を受け、「日時指定推奨」に切り替え、日時予約できない方には整理券を配布し、入場者数をコントロール。会期末の来館集中を避けるため、招待券の有効期限を分散したことも功を奏した。
また、会期末4日間の開館時間を20時まで延長した。

(3) チケット販売

- ① 全ての展覧会において、「アソビュー！」のオンラインチケットやプレイガイド等で事前購入券やペア券、音声ガイドセット券等を販売するとともに、美術館窓口で当日券を販売した。
- ② 西新宿のビジネスパーソンや新宿区民等の利便性向上を目的に、2月16日から年間パスポートの販売を開始した。スマホアプリによるデジタルチケットで、2024年度に開催する5つの展覧会全てに何度でも入場可能、販売期間は6月末までとし、価格は5000円(税込)。同行者1名の当日一般料金が半額になる特典付き。

(4) 「ゴッホと静物画」におけるセキュリティ対策

- ① 海外における環境団体による示威活動の発生を受け、入場時に手荷物検査を実施。多言語での事前告知も行き、大きなトラブルなく運営できた。
- ② 各展示室は警備員と監視員の2名体制に増員し、監視を強化するとともに、展示作品に盗難防止等の装置を導入した。
- ③ 「災害時における作品避難の手引き」および作品汚損時の保全マニュアルを新設し、あわせて万が一の作品汚損時に備え、緊急対応用キットを整備した。

(5) 設備点検・補修

- ① 「山下清展」から展示室(3F~5F)にフリーWi-Fiを増設した。
- ② ビル管理会社及び警備室と非常時(地震・火災・急病人)の対応についての見直しに着手した。
- ③ 2月に経年劣化のため、1階ロビーの壁面塗装や前庭のベンチ修理を行った。
- ④ ビル管理会社(SOMPOコーポレートサービス(株))に協力し、消火設備、自動扉、空調設備等の点検及び動作確認を定期的実施した。

<2> 来館者サービスの提供

(1) ただいま東京プラスクーポンの利用

全国旅行支援地域クーポンで「ブルターニュの光と風」当日券が購入できるようにした。

(2) 金曜日の開館時間延長等

「北欧の神秘」から、ビジネスパーソンや新宿区民を主な対象に金曜日の開館時間を20時まで延長し、年間パスポートの利用を開始した。

(3) 授乳室の増設

「山下清展」、「ゴッホと静物画」では、子育て層の来館増を想定し、2階にある既存の授乳室に加え、鑑賞中の休憩用として4階に置き型の「授乳室」をレンタルした。

(4) ミュージアムショップの運営

- ① 展覧会図録のほか収蔵品や展覧会のオリジナルグッズを販売した。
- ② 「ゴッホと静物画」では図録が売り切れたため、会期末最後の土日は約370部の郵送予約を受け付け、増刷対応した。当館で製作した展覧会オリジナルグッズのほか、受注販売複製画やゴッホ美術館 50周年特別デザイン柄グッズ(エコバッグとベアブリック)も好評であった。
- ③ 会計待ちが長時間に及ぶ事態が生じたため、「山下清展」では1階ロビーでも図録を臨時販売した。また、「ゴッホと静物画」では2階のミュージアムカフェを休業し、カフェカウンターに図録と絵はがき専用の臨時レジを設置した。

(5) ミュージアムカフェの運営

特別展会期中の土日祝日に営業していたが、「ゴッホと静物画」でのミュージアムショップの混雑を受けて12月9日から臨時休業した。

3. 広報・情報収集活動

<1> 展覧会及び美術館の広報活動

(1) 当年度展覧会広報

- ① 展覧会プレスリリースを作成し、プレス内覧会を開催するとともに、スポットCMの作成や他の企業等と連携したイベントやキャンペーン等を実施した。
- ② 全ての展覧会で新宿区の「後援」を受け、区の広報紙等で紹介してもらうとともに、チラシ配布等の協力を得た。また、FACE展2024では、初めて東京都と文化庁の「後援」を受けた。

- ③ 損保ジャパン及びグループ会社の全国店舗での展覧会印刷物の配布等による告知を実施した。また、損保ジャパンが運営するコンテンツサイト「SOMPO Park」と連携し、メールマガジンでの展覧会情報の配信等を実施した。

(2) 次年度展覧会広報

- ① 来年度展覧会のプレチラシと年間スケジュールを作成し、館内や他館で配布した。当館ウェブサイトでは年間スケジュールを12月20日に公表した。
- ② 来年度展覧会が「美術の窓 12月号」「美術展ぴあ 2024」「日経おとなのOFF2024」で紹介された。「日経おとなのOFF2024」では、夏に開催する当館のロートレック展が表紙を飾った。

(3) 美術館広報

- ① 日本テレビ「ヒルナンデス！」(5/3 放送)、オンライン・ミュージアム「MU」、京王百貨店会員向け冊子「ティータイム」等で紹介された。
- ② 大阪万博を見据えインバウンドへの美術館紹介を目的に、文化庁が統括する「日本博 2.0」に参加した。

<2> ウェブサイト及びSNSによる情報発信

- (1) 当館ウェブサイトでは、展覧会情報等を発信するとともに、鑑賞ガイドやワークシートのダウンロードサービス、各種イベントや通信販売の申込受付等を行った。また、昨年3月に決定したSOMPO美術財団のパーパスを公表するとともに、海外から見て分かりやすい表現への変更など、サイト全体の英語表記の充実を図った。
- (2) 「ゴッホと静物画」は当館ウェブサイトとは別に公式サイトを開設(7/13~1/21)した。
- (3) SNSを活用し、計画的に展覧会情報等を発信した。また、「山下清展」では、混雑状況や入場待ち時間をリアルタイムで発信した。
- (4) フォトスポットの設置や展示作品の撮影許可等により、来館者による展覧会情報の拡散を図った。

<3> 広告の実施

交通広告や新聞広告、SNS広告やメールマガジン配信による展覧会告知を実施した。「FA CE2024」では、読売新聞夕刊に受賞者決定の広告を掲出した。

4. 美術鑑賞教育の普及支援

<1> 対話による美術鑑賞

(1) 新宿区小中学生の美術鑑賞教育支援事業

「新宿区における美術振興を図るための協働連携に関する覚書」に基づき、(公財)新宿未来創造財団と「新宿区立小学校及び新宿区立中学校の美術鑑賞教育に関する協定書」を締結。ガイドスタッフによる学校での事前授業支援や美術館での鑑賞会を実施した。

【事業実施結果】

事前授業	小学校 19校 1,007名、中学校 5校 383名 合計 24校 1,390名	ガイドスタッフ 延べ 383名
鑑賞会	小学校 29校 1,590名、中学校 7校 597名 合計 36校 2,187名、先生 191名	ガイドスタッフ 延べ 862名
ガイドスタッフ在籍数 80名 活動延べ人数 1,245名		

- (2) 多国籍の児童生徒の増加に伴い、鑑賞会で使用する学習ツールとして『多言語鑑賞カード』を作成し、「ゴッホと静物画」から使用を開始した。
- (3) ギャラリー★で★トーク・アート(予約制)
休館日にガイドスタッフや他の参加者と対話をしながら作品を楽しむ鑑賞会を開催。「山下清展」では、夏休み企画として「ふぁみりー★で★とーく・あーと」と銘打ち、家族やグループでの参加を呼びかけた。

ブルターニュの光と風	5/22(月) 14時-16時	参加者 48名 ガイドスタッフ:29名
山下清展	8/7(月) 10時-12時 14時-16時	参加者 45名(うち中学生以下 15名) 参加者 45名(うち中学生以下 19名) ガイドスタッフ:のべ 51名
ゴッホと静物画	11/20(月) 14時-16時	参加者:60名(うち中学生以下 2名) ガイドスタッフ:34名
FACE展2024	3/4(月) 14時-16時	参加者:22名 ガイドスタッフ:24名

5. 美術家の支援、表彰

<1> 「FACE」の全国公募

(1) 「FACE2024」の選考

(11月12日)

- ① 業務委託先(ヤマト運輸(株))の倉庫にて審査会を実施し、1,184点の応募作品から「入選審査」と「賞審査」を経て、入選作品78点(うち受賞作品9点)を決定した。
- ② 審査員は、野口玲一氏(三菱一号館美術館上席学芸員)、大島徹也氏(多摩美術大学教授)、森谷佳永氏(神奈川県民ホールギャラリー学芸員)、秋田美緒氏(国立西洋美術館研究員)、当館梅本武文館長の5名である。
- ③ 選考結果は当館及び業務委託先のウェブサイトで公表した。

賞名	副賞金	作家名	作品
グランプリ	300万円	津村光璃	《溶けて》 可溶性建染染料・蠟けつ染め・ 綿布・パネル
優秀賞	各 50万円	佐々木綾子	《探究》 墨・ペン・水干絵具・マーカー・ 和紙・パネル
		かわかみ はるか	《26番地を曲がる頃》 日本画材・パステル・片栗粉・ 珈琲・キャンバス
		塩足月和子	《あまりにも断片的な》 石膏・キャンバス
読売新聞社賞	30万円	六無	《狩猟図》 紙本墨画・アクリル
野口玲一 審査員特別賞	各 10万円	巽明理	《CYCLE》 油彩・キャンバス
大島徹也 審査員特別賞		菊野祥希	《Rampage Printing》 アクリル・スクリーンプリント・ キャンバス

賞名	副賞金	作家名	作品
森谷佳永 審査員特別賞	各 10 万円	宮崎菖子	《23.065》 アクリル・パネル
秋田美緒 審査員特別賞		東菜々美	《some intersection lines 4》 油彩・キャンバス
オーディエンス 賞	3 万円	清水英子	《静けし》 油彩・キャンバス
	なし	巽明理	《CYCLE》 ※審査員特別賞と同時受賞

④ 表彰式と内覧会を開催し、受賞者に盾を授与するとともに、受賞・入選作家が審査員や美術関係者、マスコミ等とつながる場や機会を提供した。 (2月16日)

(2) 「FACE2025」公募規定の決定

椿玲子氏(森美術館キュレーター)、大島徹也氏(多摩美術大学教授)、森谷佳永氏(神奈川県民ホールギャラリー学芸員)、秋田美緒氏(国立西洋美術館研究員)に外部審査員を委嘱した。

公募規定は、「FACE2024」の応募者全員に発送し、当館ウェブサイトへの掲載や館内配布を行った。

<2> SOMPO美術館賞の授与

新進美術家の支援・育成を目的とする「SOMPO美術館賞」を美術団体が実施する公募展の平面作品の受賞者22名に授与した。

番号	展覧会名	授与年月日	受賞者	受賞作品名
1	第 73 回 モダンアート展	該当者なし		
2	第 82 回 創元展	R5.4.5	赤松 繁	ブーゲンビリアの丘で
3	第 76 回 示現会展	R5.4.5	鎌田 雅臣	ゆうすい
4	第 82 回 水彩連盟展	R5.4.6	村上 真由美	waiting room
5	第 109 回 光風会展	R5.4.19	高柳 惟	木漏れ日の中で
6	第 100 回記念 春陽展	R5.4.19	澁谷 美求	楽園の女2
7	第 89 回 東光展	R5.4.26	東 裕子	時の記憶
8	第 97 回 国展	R5.5.3	梅田 勝彦	FACE
9	第 118 回 太平洋展	R5.5.17	松本 昌和	碌山美術館
10	第 89 回 旺玄展	R5.5.21	米澤 眞理子	贈り物
11	第 37 回 日洋展	R5.5.31	渡辺 悠太	いのち
12	第 79 回 現展	R5.6.3	遠藤 克己	Energetic color 23 (right)
13	第 76 回 女流画家協会展	R5.6.7	深井 富美子	胸騒ぎⅡ
14	110周年記念 日本水彩展	R5.6.25	倉本 寿是	雨上がり
15	第 107 回 二科展	R5.9.6	鈴木 綾子	凝視 突進

番号	展覧会名	授与年月日	受賞者	受賞作品名
16	第 86 回 新制作展	R5.9.20	高橋 拓也	皮膚
17	第 78 回 行動展	R5.9.23	板橋 かおり	四合和世
18	第 84 回 一水会展	R5.9.23	中田 基宏	鯨の唄
19	90 回記念 版画展	R5.10.15	安齋 歩見	崖と犯人(仮)
20	第 90 回記念 独立展	R5.10.18	丸山 純奈	美しきもの
21	第 76 回 二紀展	R5.10.21	藤井 のぶお	来る日 2023 II
22	白日会創立百周年記念展	R6.3.20	宇田川 格	a little story

6. 油彩画等の保存修復に関する新たな取組

1月30日に開催した臨時理事会において、国内における油彩画等の保存修復に関する課題解決に向け、次年度以降を準備期間として事業化を目指した取組を開始することを決議し、要員体制の整備を開始した。

7. ネットワークの構築・活用

<1> ネットワーク構築

(1) 西新宿の再整備等への関与

昨年度に引き続き、東京都による「西新宿先端サービス実装・産官学コンソーシアム」の地域会員として、以下の「5G等先端技術サービスプロジェクト」に協力した。

- ① AIによる映像・音楽生成システムをロビー等に設置 (2023年3月～6月)
- ② 聴覚障がい者向け鑑賞会の開催 (12月18日)
「ゴッホと静物画」の休館日に、聴覚障がい者向け「字幕表示メガネで美術鑑賞体験会」を開催。音声を変換するシステムによるギャラリートークを実施した。
- ③ 西新宿を自動で走行するロボットへの広告掲載 (2月)

(2) 新宿区による新宿フィールドミュージアム(10/1～11/30)に協賛した。

<2> 情報収集活動

日本博物館協会や全国美術館会議、私立美術館会議が開催する会議等への出席や国内外美術館への表敬訪問等を通じて情報収集や意見交換を行った。また、当年度の私立美術館会議総会は当館が会場を提供し、理事長及び館長が開催挨拶や講演を行った。

<3> 公共への協力

- (1) 文化庁による実証実験「美術品 DX による管理適正化・市場活性化推進事業」において、他館への作品貸出に際し、ICタグの設置等に協力した。
- (2) 新宿消防署主催の児童画展審査会に協力し、当館学芸員が審査員を務めた。
- (3) 公益財団法人日本博物館協会に対し、令和6年能登半島地震をはじめとする被災博物館および文化財等の救援および復興支援のための寄附を行った。

Ⅱ. 法人の概況

1. 沿革

- 1976年6月1日 財団法人安田火災美術財団設立
1976年7月8日 東郷青児美術館を安田火災(現:損保ジャパン)本社ビル42階に開設
1987年4月1日 安田火災東郷青児美術館に館名変更
2002年7月1日 財団法人損保ジャパン美術財団に名称変更
損保ジャパン東郷青児美術館に館名変更
2010年4月1日 公益法人に移行し、公益財団法人損保ジャパン美術財団に名称変更
2014年9月1日 公益財団法人損保ジャパン日本興亜美術財団に名称変更
東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館に館名変更
2020年4月1日 公益財団法人SOMPO美術財団に名称変更
SOMPO美術館に館名変更し、新美術館棟へ移転
2020年7月10日 移転後初の展覧会「開館記念展」開幕

2. 定款に定める目的

この法人は、絵画、彫刻等の美術作品を収集し、保存するとともに広く一般の鑑賞に供し、併せて新進の創作を奨励し、もって我が国芸術文化の振興と国民生活の向上に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 美術作品の収集、保存、公開
- (2) 展覧施設の運営管理
- (3) 美術家の支援、表彰
- (4) 美術鑑賞の教育普及
- (5) 頒布品の製作、販売
- (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

4. SOMPO美術財団のパーパス

“安心・安全で信頼される美術館として 芸術文化で心豊かな社会をつくり 芸術文化を未来へつなぐ“

＜社会に提供する3つの価値＞

- 多様性のある人材やつながりにより、芸術文化の今と未来をつくる力を育む
- 身近な美術鑑賞の場の提供により、人々の感性と知的好奇心を刺激する
- 《ひまわり》をはじめとするコレクションを守り、活動成果とともに未来に残す

5. 主たる事務所

東京都新宿区西新宿一丁目26番1号

6. 役員等に関する事項

2023年度末現在

職名	氏名	就任日	主な現職	最初の就任日
理事長 代表理事 (非常勤)	櫻田 謙悟	2022.6.23	SOMPOホールディングス(株) グループCEO取締役代表執行役会長	2022.6.23

職名	氏名	就任日	主な現職	最初の就任日
専務理事 業務執行理事 (常勤)	梅本 武文	2022.6.23	SOMPO美術館館長	2021.6.25
理事 (非常勤)	千足 伸行	2022.6.23	広島県立美術館館長、 成城大学名誉教授	1998.6.24
理事 (非常勤)	樺山 紘一	2022.6.23	(公財) 渋沢栄一記念財団理事長、 東京大学名誉教授	2008.6.24
理事 (非常勤)	今野 秀洋	2022.6.23	(一財) 貿易・産業協力振興財団理事長	2016.6.29
理事 (非常勤)	山脇 晴子	2022.6.23	中央更生保護審査会常勤委員	2018.6.29
理事 (非常勤)	垣内 恵美子	2022.6.23	政策研究大学院大学名誉教授、 文化政策コースディレクター	2022.6.23
監事 (非常勤)	新里 智弘	2020.7.15	公認会計士	2007.6.19
監事 (非常勤)	内田 満雄	2020.7.15	公認会計士	2016.6.29
評議員 (非常勤)	宝木 範義	2022.6.23	美術評論家	2008.6.24
評議員 (非常勤)	小佐野 重利	2022.6.23	東京大学名誉教授、 同大学院新領域創成科学研究科人間 環境学専攻特任研究員	2009.3.31
評議員 (非常勤)	加藤 種男	2022.6.23	(公財) 静岡県文化財団副理事長、 クリエイティブ・ディレクター	2016.6.29
評議員 (非常勤)	越川 倫明	2022.6.23	東京藝術大学教授	2016.6.29
評議員 (非常勤)	水越 雅信	2022.6.23	DIC(株)常勤顧問、 DIC川村記念美術館館長	2020.7.15
評議員 (非常勤)	河村 潤子	2022.6.23	(独) 日本芸術文化振興会顧問	2022.6.23
評議員 (非常勤)	高橋 明也	2022.6.23	東京都美術館館長	2022.6.23
評議員 (非常勤)	松本 透	2022.6.23	長野県立美術館館長	2022.6.23
評議員 (非常勤)	山梨 絵美子	2022.6.23	千葉市美術館館長、 (公財) 日本博物館協会会長	2022.6.23
評議員 (非常勤)	石川 耕治	2022.6.23	損害保険ジャパン(株) 代表取締役社長	2022.6.23
評議員 (非常勤)	下川 亮子	2022.6.23	SOMPOホールディングス(株) グループCSuO執行役	2022.6.23

職名	氏名	就任日	主な現職	最初の就任日
評議員 (非常勤)	渡邊 光一郎	2023.6.29	第一生命保険(株)特別顧問	2023.6.29
評議員 (非常勤)	平野 友輔	2023.6.29	SOMPOホールディングス(株) サステナブル経営推進部長	2023.6.29

7. 職員に関する事項

2023年度末現在

職名	氏名	就業 年月日	担任業務	備考
事務局長	太田 裕也	2021.4.1	事務局事務統括	損害保険ジャパン(株) より出向
担当部長	村田 明弘	2018.4.1	契約、渉外、広報事務等	〃
参事 (学芸担当)	江川 均	1998.4.1	資料の収集・保管・展示等補佐	
上席学芸員	中島 啓子	1997.10.1	資料の収集・保管・展示、 調査研究、その他専門的業務	
上席学芸員	小林 晶子	1997.9.1	〃	
主任学芸員	武笠 由以子	2017.10.1	〃	
学芸員	岡坂 桜子	2019.1.1	〃	
学芸員	桑名 真吾	2023.7.1	〃	
学芸員	古舘 遼	2023.7.1	〃	
学芸員	朝倉 南	2022.7.1	〃	
プロジェクト リーダー	安西 慧	2023.11.1	保存修復プロジェクト等の 新事業関連業務	SOMPOホールディングス(株)より兼務出向
事務主任	出口 知子	1999.10.1	財団総務・美術館運営事務等	
事務職員	本條 志穂	2003.10.1	美術館運営事務等	
事務職員	池田 美紀	2012.4.1	〃	
主任学芸員 (広報担当)	中村 祐美子	2023.4.1	美術館広報事務等	
事務職員	杉本 典子	2012.4.1	〃	
事務職員	吉井 有紀	2013.4.1	鑑賞教育事務、広報事務等	

8. 役員会等に関する事項

<1> 理事会

開会年月日	議事事項等	会議の結果
2023年6月7日	定款第38条に基づく理事会決議の省略による決議 ■決議事項 定時評議員会の招集 2022年度事業報告及び決算報告の承認	原案どおり可決 原案どおり可決
2023年6月29日	■報告事項 活動状況報告 (2023年3月14日～6月11日) 理事長・専務理事の職務執行状況 (2023年3月14日～6月11日) 油彩画等の修復及びFACE見直しに関する検討・ 進捗報告	
2024年1月30日	■決議事項 油彩画等の保存修復に関する新たな取組 ■報告事項 「FACE」および「絵画のゆくえ」展の改定	原案どおり可決
2024年3月28日	■決議事項 2024年度事業計画及び収支予算等の承認 2025年度展覧会の開催 特定費用準備資金等の積立 館則の改定 役員等賠償責任保険契約の承認 事務局長の選任 ■報告事項 2026年度以降の展覧会準備状況 2023年度の決算見込み 活動状況報告 (2023年6月12日～2024年3月13日) 理事長・専務理事の職務執行状況 (2023年6月12日～2024年3月13日)	原案どおり可決 原案どおり可決 原案どおり可決 原案どおり可決 原案どおり可決 須山直樹を選任

<2> 評議員会

開会年月日	議事事項等	会議の結果
2023年6月29日	■決議事項 2022年度決算報告の承認 評議員の選任 ■報告事項 2022年度事業報告 SOMPO美術財団のパーパス及び中長期の対応 方針 2023年度事業計画及び収支予算等の報告 2024年度展覧会の開催	原案どおり可決 原案どおり可決

9. 許可、認可、届出、承認及びその他の重要事項

届出等年月日	申請等事項
2023年5月30日	東京都教育委員会へ博物館等運営状況定期報告書等を提出した。
2023年6月14日	東京都及び文部科学省へ「青少年を対象とした取組等に関する実績報告(2022年度)」を提出
2023年6月30日	内閣府へ2022年度事業報告等を提出
2023年7月21日	内閣府へ評議員の変更届を提出
2023年11月1日	健康保険組合連合会東京連合会による健康優良企業「銀」の認定
2024年3月28日	内閣府へ2024年度事業計画書等を提出

10. 寄付金等に関する事項

寄付の目的	寄付者	領収金額
公益目的事業に充当	SOMPOホールディングス(株)	56,700,000円
	法人・団体 24件	5,900,000円
	個人 39件	1,901,000円
収益目的事業に充当	団体 1件	500,000円
法人の管理運営に充当	SOMPOホールディングス(株)	21,300,000円

11. 行政庁指示に関する事項

該当なし

12. その他

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する附属明細書は、特記事項がないため作成していない。

以上